

1. とうもろこしのシカゴ定期は、3月には360セント／ブッシェル台で推移していたが、米国産新穀の作付面積減少見通しから370セント／ブッシェル台まで上昇した。その後、生育期に入り高温乾燥の天候予報により作柄悪化懸念が高まったことから380セント／ブッシェル台まで値上がりし、米国中西部の降雨予報による作柄改善期待から360セント／ブッシェル台となったものの、再び高温乾燥の天候予報があったことにより上昇し、現在は370セント／ブッシェル台となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、3月には360ドル／トン台で推移していたが、米国産新穀大豆の作付面積増加の見通しにより大豆のシカゴ定期が下落したことから340ドル／トン前後まで値下がりし、その後も、米国産新穀大豆の作付が順調にすすんだため軟調な展開が続いたが、高温乾燥による作柄悪化の懸念により値上がりし、現在は360ドル／トン前後で推移している。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、2月には36ドル台で推移していたが、中国向け石炭などの輸送需要が引き続き好調であることに加え、南米産穀物の輸送需要が本格化したことなどから4月には40ドル／トンを超える水準まで上昇した。その後、南米産穀物の輸送需要が一服したことなどから37ドル／トン前後で推移していたものの、南米産穀物の輸送需要が再び増加していることなどから、現在は40ドル／トン前後で推移している。
4. 外国為替は、3月中旬には113円台であったが、中東や北朝鮮等の国際紛争リスクの高まりなどにより円高がすすみ、4月中旬には一時110円を下回った。その後、良好な米国経済指標により6月から年数回の利上げ観測が高まったことなどから114円台まで円安がすすみ、米国の経済政策に対する先行き不透明感の高まりなどから円高となった。7月7日に発表された米雇用統計の結果を受け円安となったが、米国経済政策への先行き不透明感が再び高まっていることを背景に円高となり、現在は112円前後となっている。

